

# ひこばえ

北海道教育大学附属旭川小学校  
学園だより



## 思いやる子

学校長 笠原 究

例年になく雪の少ない冬でしたが、この原稿を書いている4月上旬でもまだ肌寒い日が続き、春の訪れが待ち遠しく感じられます。附属旭川小学校では、新たに赴任された先生方をお迎えし、子供たちとともに新しい一年を過ごす準備を進めてきました。



今年度の重点目標は「思いやる子」です。教育目標に書かれた「思いやる子」には、「美しいものや崇高なものに感動する心を持ち、他の考えや生き方を思いやる子」という説明が添えられています。では、どうすれば子供たちを「思いやる子」へと育てていけるでしょうか。私は、本校の総括目標にある「よく見、よく聞き、よく思い」を、日々の生活の中でたくさん経験させてあげることが大切だと考えています。

まずは「よく見る」ことです。忙しい生活の中では、多くのものが目に入りますが、それらにじっくりと注意を向けて観察することはまれになりがちです。“see”ではなく“watch”することです。通学路で見つけた路傍の花に春の訪れを感じる。学校のきれいな下足箱を見て、掃除してくれた人に感謝すること。クラスで元気のない友達に声を掛けること。こうしたことは、よく見ていなければできないことです。

「よく聞く」ことも「思いやる子」になる近道です。相手の話に耳を傾けること、これは“hear”ではなく“listen”です。クラスの話合いでは、自分と異なる意見であってもまず聞くことが肝心です。自分とは違う考えの中に新たな発見があるかもしれません。自分も言いたいことはあるけれど、まずは相手の言いたいことを聞くこと。よい聞き手は、相手との人間関係を美しく保つことができます。



そして「よく思う」ことです。よく思うことは、他者への理解につながります。「理解する」は英語で言うと“understand”です。直訳すれば「下に立つ」となります。なぜ相手が自分と違う考えを持っているかは、その人の下に立ってみないと分からないことがあります。相手に寄り添い、共感をもって理解しようとする。これこそが「思いやる子」の姿ではないでしょうか。

附属旭川小学校では、教科、特別活動等、遊びの時間を通して、子供たちに「よく見、よく聞き、よく思う」経験をたくさん積んでもらいます。保護者の皆様にも、お子様とともに「よく見、よく聞き、よく思う」経験をたくさんしてほしいと思います。素敵な音楽を一緒に聞いたり、映画を見たり、本を読んだりすることが、美しいものや崇高なものに感動する心を育てます。保護者の皆様、今年度も本校の教育活動に御理解、御協力を賜りますようお願いいたします。そして、共に子供たちを「思いやる子」へと成長させていきましょう。

### 学園だより「ひこばえ」の発行について

昨年度は、全て学校 Web サイトへ掲載しておりましたが、校長・副校長が執筆する内容につきましては、紙版を配付いたします。学校 Web サイトと併せて、御覧いただきますよう、お願いいたします。